

【渡名喜村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

個別最適な学びでは、児童生徒のペース、方法、理解度、興味関心も少しずつ異なり、児童生徒が納得するやり方で進めていく。また一人で学ぶに時間的な制約があり、協働的な学びが必要となり、友達と対話を通し、またクラウド上で友達の考えを参照し、感化される場面等が想定される。

1人1台端末やクラウド環境下での個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実し、児童生徒が主体的に学び、児童生徒が対話的に学ぶ、児童生徒の資質・能力の育成につなげていくことを目指す。

2. GIGA第1期の総括

渡名喜村では、にGIGAスクール構想において、端末を32台と電子黒板9台、校内LAN整備を行い令和4年度よりICT授業がスタートしましたが、学校現場では、情報モラルやICT機器の活用に関する教職員研修をこれまで以上に充実させ、指導力の向上を目指す必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

校内研修の積極的な実施と活用により、全教職員を対象としたICT研修を取り入れ機器を活用した指導力の向上を図り、環境の構築を図る。

端末を活用し、学習履歴や生徒指導上のデータ等を活用することで、児童生徒の特性や学習進度の応じた指導の個別化を進める。

すべての児童生徒に公平な学習の機会を保障する。端末の整備更新により、端末の環境を引き続き維持する。

【渡名喜村】

校務DX計画

校務DX計画において、GIGAスクール構想で導入された端末の「標準仕様のツール」を活用した校務DXを推進していく。また、次世代校務支援システムについては、沖縄県教育委員会と連携して県域での導入に向けて連携を図っていく。

日々の校務改善に、標準仕様のツールをフル活用していき、働き方改革やペーパレス化にもつなげていく。

1. コミュニケーションツールの活用

校内での事務連絡等や個別の連絡にチャットを有効活用することで、即時共有が可能となる。これまで職員室に戻り連絡を確認するといった業務も縮小されていく。また、チャット上で共有した資料やリンクはチャットスペース上に保存され、後日、確認・編集等が可能となり、先生方の作業する時間も自己のタイミングで調整可能となり、業務時間の削減に繋がる。

2. クラウドツールの活用

チャット同様、標準仕様のクラウドツールを校務での利活用を促進する。例えば、表計算ソフト等での校務の進捗状況を把握、共同編集機能で、勤務の動態表等の作成、その他には、学校評価、学校内でのアンケートフォームの活用、カレンダー機能を活用した行事の共有等についても標準仕様のツールを活用することで、ペーパレス化の促進及び校内での確認・共有が容易となり、業務削減等にもつながる。また、ホームページ作成ツール等も活用し、学校のホームページ、校内研のサイト、各種委員会のサイトなど、情報を一元化し、情報共有を簡便にすることができる。

3. 校務DXチェックリスト

校務DXチェックリストの項目は、標準仕様のクラウドツールで十分対応可能となっており、クラウドツールの校務での利活用の促進を図るための教育委員会の研修や校内研と連携した研修の充実を図っていく。

4. FAX・押印について

FAXや押印については、小中学校教諭との間で検討会を立ち上げ、文書管理規程の見直し、コミュニケーションツールでの代替及びシステム等の導入を検討する。

。

5. 校務の授業の研修（校務と授業と研修が相似形になる利活用を促進）

導入されている標準仕様のクラウドツールを校務での活用をはじめ、研修でも利活用を促進し、そのノウハウを授業に活かすことが求められている。標準仕様のクラウドツールを校務、授業、研修など校務のあらゆる場面でも使えるよう実践を深めていく。

6. 校務での生成AIの利活用について

校務での生成AIの利活用を図る。まずは、日常の公文等の文章の添削、要約、学校アンケート等の分析活用。先生方の授業や授業外でのアイデア出しなど、先生方が校務で慣れるから活用までを想定し、研修会等も計画に実施していく。

7. 次世代校務支援システムの導入に向けて

沖縄県教育委員会と連携し、次世代校務支援システムの導入に向けて連携を図り、校務DXの推進を図っていく。

(別添 1)

【渡名喜村】
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	1 6	1 4	1 1	1 0	6
② 予備機を含む 整備上限台数	0	0	5 2	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	0	3 2	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	0	3 2	0	0
⑤ 累積更新率	0%	0	1 0 0 %	0	0
⑥ 予備機整備台数	0	0	1 1	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	0	1 1	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	0%	1 0 0 %	0%	0%

(確認事項)

- ・児童生徒数は、渡名喜小学校、渡名喜中学校の児童生徒の合計とする。令和 6 年度学校基本調査を参考に児童生徒数の推移予測を下にこの人数とした。
- ・予備機については、国の補助上限の 1 5 %を念頭に、常時活用を可能とするために更新し、台数を整備する。

(端末の整備・更新計画の考え方)

更新予定は、渡名喜小中学校は 2 1 台となっており令和 3 年度に 3 2 台整備している。

児童生徒数は、今後の入学予定人数をもとに計画を立てているが、増減に合わせて、整備台数を調整する。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：3 2 台

○処分方法

- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にて再使用・再資源化を委託 : 3 2 台
- ・その他 (サポート切れまで学校で継続して利用する)

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

・自治体の職員が行う

☒ 処分事業者へ委託する

○スケジュール (予定)

令和8年6月 処分事業者 選定
令和8年9月 新規購入端末の使用開始
令和8年9月 使用済端末の事業者への引き渡し
○その他特記事項
再使用・再資源化の業者は無料で引き受けることを想定している。

(別添 2)

【渡名喜村】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

校内ネットワーク確保出来ている学校数 1 校 (渡名喜小中学校)

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

本件においては、ネットワーク監視の委託事業者、契約しているネットワーク事業者及び校内LAN保守運用を行っている事業者と連携し、場合によっては教育委員会の職員によって学校の現地調査等を行っており、既にネットワーク速度の確保に向けた課題を特定している。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

日常的なネットワーク監視及び、教育現場からの要望を踏まえ、令和 7 年度以降のネットワークの改善に向けて検討を進めている。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

契約している校内LAN保守運用を行っている事業者と連携し、日常的なネットワーク通信状況の確保を行っており、今後も継続して衣装環境の維持に努める。